

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	126人	社会	126人	数学	126人
	理科	126人	英語	126人		

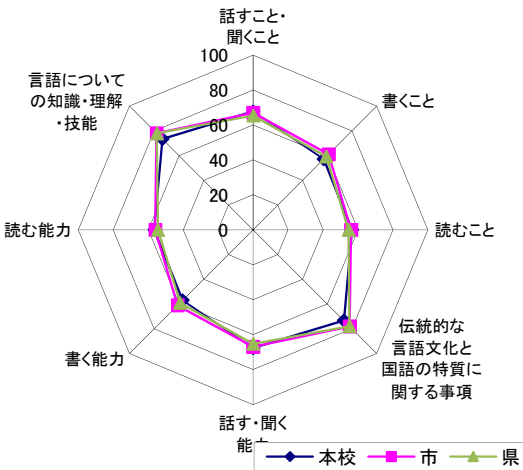
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	67.7	67.0	65.3
	書くこと	57.1	61.1	59.2
	読むこと	56.6	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.4	78.2	78.0
観点	話す・聞く能力	67.7	67.0	65.3
	書く能力	57.1	61.1	59.2
	読む能力	56.6	56.0	54.5
	言語についての知識・理解・技能	73.4	78.2	78.0



★指導の工夫と改善

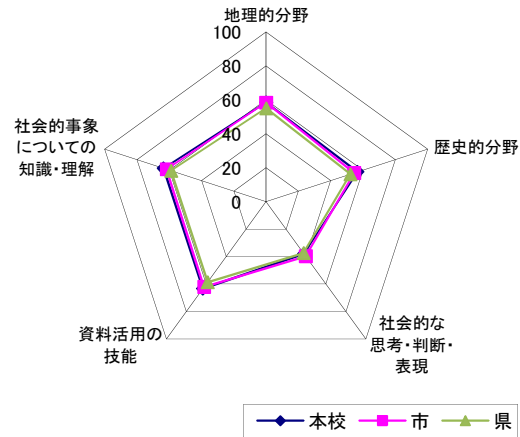
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	県平均と比べると2.4ポイント、市の平均と比べると0.7ポイント上回っている。 ○「聞き方、話し方の理解」が県平均、市の平均ともに上回っている。	聞き取りテストを実施し、「聞くこと」の意識を高めている。目的に応じた聞き取りができるように、定期的に聞き取りテストを実施していく。その反面「話すこと」に関しては、自分の意見がうまくまとまらず、表現できない面が見られるので、授業中に問題、質問等を提示し、改善していけるようにしたい。
書くこと	県平均と比べると2.1ポイント、市の平均と比べると4ポイント下回っている。 ○「話し合いを基にして要旨を記述する」が県平均を上回った。 ●「目的に合った原稿の作成」が県平均、市平均ともに下回っている。	書くことの苦手意識が高い。自分の意見、考えなどがうまくまとめられない傾向がある。まとめても、質問の趣旨がずれていることがあるため、プリントの問題演習で「書くこと」を意識させて、力をつけさせたい。
読むこと	県平均と比べると2.1ポイント、市の平均と比べると0.6ポイント上回っている。 ○「説明文の内容の理解」が県平均、市平均より上回っている。「文学作品の内容理解」は県平均を上回っている。 ●「題材の捉え方などについて2つの原稿を比較する」が県平均、市平均ともに下回っている。	読書は好きな学年であるため、読むことにあまり抵抗がないと思われる。ただ読み取れても、自分の言葉、文章に直して解答することが苦手なので、文章構成の力もつけさせられるようにしていきたい。そして、今回の「原稿の比較」のような問題演習を取り入れていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	県平均と比べると4.6ポイント、市の平均と比べると4.8ポイント下回っている。 ○「歴史的仮名遣い」は県平均、市平均を上回っている。 ●漢字が苦手であり、特に「漢字の書き」が県平均、市平均ともに下回っている。	漢字の読みはできるが、書き問題となると書けなくなる生徒が多い。漢字練習を意識付けさせ、漢字テストを定期的に設けていき、言語力を高めていきたい。古典も苦手意識はあるようだが、「基礎の歴史的仮名遣い」ができているので、基礎を固めて、段階を踏みながら指導していきたい。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	58.5	58.4	55.0
	歴史的分野	56.6	54.6	52.2
	社会的な思考・判断・表現	37.9	39.8	37.5
	資料活用 of 技能	63.4	62.3	58.7
	社会的事象についての知識・理解	63.6	61.7	59.0



★指導の工夫と改善

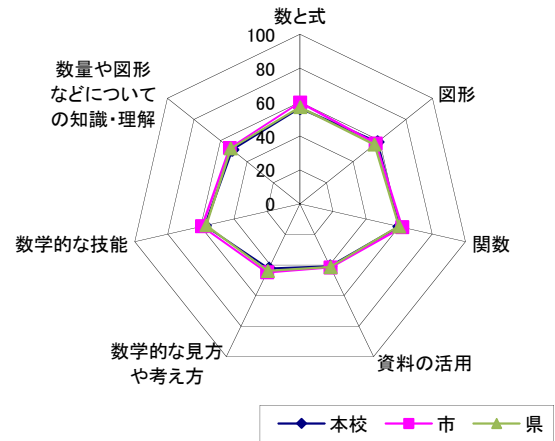
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	平均正答率について、市の平均を0.1ポイント、県の平均を3.5ポイントそれぞれ上回っている。 ○基礎的な内容は概ね市と県の正答率を上回っている。特に、「赤道と本初子午線の交わる位置を読み取る」、「示された条件に当てはまる国を推測し地図から選択する」の設問では、市と県の正答率を大きく上回っている。 ●「複数の資料からアフリカの経済における課題を考察する」、「複数の資料からアメリカの農業の特徴を考察する」、「複数の資料からアメリカに工業の特徴を読み取る」の設問において、市と県の正答率を下回っている。	地理的分野において、基礎的な内容は概ね理解できており、世界の人々の生活の様子やいくつかの条件に当てはまる国や地域を推測することは得意である。また、雨温図の読み取りなど資料活用 of 技能が身についている。しかし、複数の資料から考察し、自分の言葉で表現することについて苦手としている。今後は複数の資料から必要なデータを見つけ出す・データから結論を導きだし、自分の言葉で表現するといった授業の場面を積極的に設けたい。
歴史的分野	平均正答率について、市の平均を2.0ポイント、県の平均を4.4ポイントそれぞれ上回っている。 ○「年代の表し方がわかる」、「鎌倉幕府と室町幕府のしくみの違いを読みとる」、「明との貿易の名称が分かる」の設問では、市と県の正答率を大きく上回っている。 ●「系図を元に藤原氏が繁栄した背景について考察する」、「承久の乱後に実施された幕府の政策について考察する」の設問について、市と県の正答率を下回っている。	歴史的分野について、基礎的な内容はおおむね理解できている。しかし基礎的・基本的な知識・技能が未定着と考えられる設問が見られたので、授業の中で既習事項と関連させながら定着に努めたい。また、地理と同様に資料から考察して、自分の言葉で表現することが苦手としている割合が高く、話し合い活動を意図的に設けて、学び合いの中から自分の意見をまとめ、伝える・文章で書くといった表現する時間を意図的に設定していく。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	56.5	59.8	57.0
	図形	58.4	57.1	56.1
	関数	60.0	61.8	59.8
	資料の活用	40.8	41.6	41.4
観点	数学的な見方や考え方	42.3	44.9	43.9
	数学的な技能	57.6	59.4	56.8
	数量や図形などについての知識・理解	51.2	53.0	52.3



★指導の工夫と改善

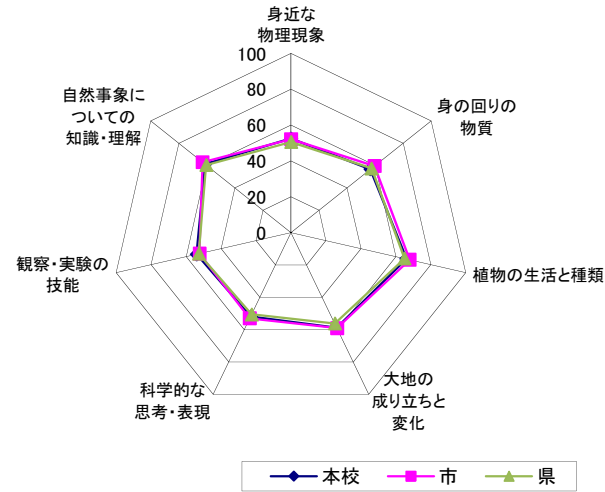
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	県平均と比べると0.5ポイント、市平均とは3.3ポイント下回った。県平均とはあまり変わらなかった。 ○1次関数の内容は、県平均よりも2.4ポイント上回っているが、市平均より1.3下回っている。 ●正負の数の内容は、県平均よりも0.9ポイント、市平均は2.9ポイント下回っている。文字式の内容は、県平均よりも2.3ポイント、市平均より4.8ポイント下回っている。	最初にテストに出てくる計算問題の部分での正答率が県や市の平均値よりも下回っている。これはやはり計算練習が不足していると考えられる。授業において、計算演習する時間をとることで、身につけさせていく必要がある。
図形	県平均と比べると+2.3ポイント、市平均とは+1.3ポイントと、それぞれ上回っていた。 ○空間図形の内容は、県平均よりも+4.4ポイント、市平均は+3.7であった。 ●平面図形の内容は、県平均よりも-3.1ポイント、市平均は-4.7であった。	平均を下回っていた平面図形は、図形の移動や作図の内容の応用であった。基本的な作図を行うだけでなく、それを用いた応用問題も授業において行っていく必要がある。定着させるために繰り返し行う必要もある。平均を上回っていた空間図形は、普段の授業でこのまま維持していきたい。
関数	○県平均と比べると+0.2ポイントであった。 ●市平均とは-1.8ポイントであった。	県平均とあまり変わらなかったことから、基礎的なところは確実にできていると考えられる。文章から式を立てる問題や、グラフを読み取って考えを述べる問題が出来なかったと考えられるので、その辺りに時間をかけて理解させていく必要がある。
資料の活用	●県平均と比べると-0.6ポイント、市平均とは-0.8ポイントであった。	問題的に難しくないが、生徒の正答率は平均以下であった。理由は練習不足であると考えられる。中学1年の授業内容の中で最後にあたるのが、資料の整理と活用である。それほど生徒に演習が出来ずに内容が終わってしまっていると考えられる。計画的に内容を進めていき、ゆとりを持って授業を行っていく必要がある。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	52.5	52.1	50.5
	身の回りの物質	56.6	59.6	57.4
	植物の生活と種類	66.0	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	58.8	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	51.9	53.1	50.6
	観察・実験の技能	54.0	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	61.3	63.1	60.5



★指導の工夫と改善

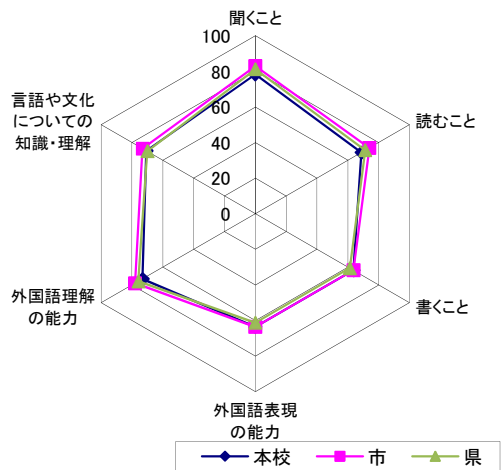
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	市や県と比較して、平均正答率が上回っている領域である。 ○「光と音」の内容は、特に平均正答率が高く、光の進む道すじについては、知識・理解、思考・表現の観点においておおむね身についていると考えられる。 ●音の波形を比較し、大きさ・高さについて説明する問題の平均正答率が低く20%を下回った。	身につけた知識を活用し、思考して、表現する。特に分かりやすく記述することを求めるような設問に苦手意識があるように思われる。授業の中で、自分の考えを記述し、表現するような活動を多く取り入れ、記述した内容を生徒同士で話し合ったり、確認し合うことを通して改善を図るようにしていきたい。
身の回りの物質	県と比較して、平均正答率が下回ってしまった領域である。 ○メスシリンダーやガスバーナーの使い方など、観察・実験の技能に関わる設問については、平均正答率が高く、市や県と比較しても上回っている。 ●溶解度のグラフと水溶液中の溶質の粒子のモデルを関連させた設問の平均正答率がとても低かった。	「物質のすがた」の内容は、平均正答率が高く、おおむね理解できていると考えられるが、「水溶液」の内容が低い。グラフからの読み取りや、割合の計算などを苦手とする生徒が多いため、問題演習や基本的な計算の確認などをとり入れて向上できるよう支援していきたい。
植物の生活と種類	平均正答率は、県は上回ったが、市は下回ってしまった。他の領域と比較すると、例年通りではあるが、正答率がとても高い。 ○知識・理解の観点の設問に関しては、平均正答率がとても高い。 ●「生物の観察」の内容については、平均正答率が県の平均を大きく下回ってしまった。	顕微鏡の操作手順についての理解が不十分であると考えられる。観察・実験で頻繁に使用される器具なので、その都度机間巡視をしながら指導を徹底していきたい。 対照実験の結果から、考察として導き出されることは何なのかを、条件の比較から関連づけられるように意識させる。表などを活用して分かりやすくすることで理解を深めさせていきたい。
大地の成り立ちと変化	平均正答率は、県を上回ったが、市にはわずかに届かなかった。 ○「地層の重なりと過去の様子」の平均正答率は、県と市の両方を大きく上回った。また、「初期微動」や「示相化石」などの基本的な理科の用語はきちんと理解できているようである。 ●鉱物の種類についての理解が不十分である。	1学年の終盤の単元であり、進度の関係から十分な時間の余裕がなく指導にあたったため、理解が不十分だった部分が見られた。指導計画をきちんと確認しながら、余裕をもって指導していけるようにしたい。 柱状図の比較から、地層の堆積や環境の変化について思考を問うような設問に関しては、粒の大きさと堆積順の関係のイメージをもたせることと問題演習を行うことで向上を図りたい。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	78.2	82.9	81.2
	読むこと	68.8	73.9	71.2
	書くこと	63.6	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	63.6	63.6	61.2
	外国語理解の能力	73.2	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	70.7	73.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率について、市の平均を4.7ポイント、県の平均を3.0ポイントそれぞれ下回っている。 ○「対話文を聞いて、通学方法を聞き取る」、「家での対話文において、適切に応答する」の設問で、市・県の正答率をわずかに上回っている。 ●「対話文を聞いて、エミが何曜日に何をするかを聞き取る」、「教室での対話文において、適切に応答する」、「ブラウン先生の学校に来る日を聞き取る」の設問で、市・県の正答率を大きく下回っている。	内容について、「1 対話文の聞き取り」、「2 対話文の聞き取りと応答」、「3 まとまりのある英語の聞き取り」のうち、「3」に関する正答率が市・県の値を大きく下回り、課題として認められる。短い文章や、簡単な英語でのやり取りへの理解には大きな乖離がないことから、聞く分量とのかかわりが大きいようである。 今後は、やや長い英文や対話文に慣れ親しませる機会を多くし、苦手意識を克服できるよう支援していく。その際には、全体のとらえ方や聞き取りの重点化などを指導したり、筋の流れに注意して聞く方法などについて指導したりしていく。
読むこと	平均正答率について、市の平均を5.1ポイント、県の平均を2.1ポイントそれぞれ下回っている。 ○すべての小問で市の正答率下回っているが、「ビルの応答文に合う英文を理解している」、「長文を読んで内容を理解する」の設問で、県正答率をわずかに上回っている。 ●「現在進行形」、「一般動詞の過去形」、「サラの応答文に合う英文」の理解の設問、及び「対話文を読んで、拓也の通学方法について読み取る」設問において、市・県の正答率を大きく下回っている。	内容について、「4 語彙の理解」、「5 文法の理解」、「6 まとまりのある英語の読み取り」、「7 長文の読み取り」、「8 語順の理解」のうち、「5」に関する正答率が市・県の値を大きく下回り、課題として認められる。 今後は、新出の言語材料の導入を工夫し、「知りたい」・「言ってみたい」という意欲を、一層高めることができるようにする。また、口頭練習やコミュニケーション活動を充実させ、基本文の定着が促進されるようにする。「4」については市・県の値を上回っていることから、良い面を活用し学習が進められるよう支援していく。
書くこと	平均正答率について、市と同値であり、県の値を2.4ポイント上回っている。 ○「「3」を英語で書く」、「金曜日」を英語で書く」、「How many ～?を理解し、正しい語順で書く」、「スポーツをしますか」の質問に対する応答文を書く」、「応答文につながる英文を書く」、「内容につながる英文のある3文以上の英文を書く」の設問で、市・県正答率をわずかに上回っている。 ●「現在進行形を理解し、正しい語順で書く。」の設問について、市・県正答率を大きく下回っている。	内容について、「9 場面や条件に応じた英作文」、「10 テーマに基づく英作文」が出題されているが、いずれも市の平均正答率にわずかに届かないものの、県の値は上回っている。 今後は、「書く」活動を段階的に増やしていけるよう指導過程を工夫し、「書くこと」に、より慣れ親しむことができるようにする。また、「書きたい」と意欲が高まるような課題を工夫し、学校行事などの機会をとらえ、テーマを決めて取り組むことができるようにしたい。また、良い作品を共有するための方法を工夫し、学び合いを通して作文の力が高まるよう支援していく。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と将来のことについて話すことがある。」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」「自分は家族の大切な一員だと思う。」「家の人と学習について話をしている。」「早寝、早起きを心がけている。」「食事のとき、好き嫌いをしないで食べている。」の肯定割合がいずれも県の平均より高く、家族との関係が良好であることやきちんとした食生活を心がけていることがわかる。

○「難しい問題にであうと、よりやる気がでる。」の肯定割合が51.8%で、市より11.2ポイント、県より12.1ポイント上回っていることから、課題に積極的に取り組もうとする意欲が高い生徒が多い。また、「先生は学習のことについてほめてくれる。」の肯定割合が市と県のいずれも上回っており、生徒のよいところを認め励ます取り組みを継続したい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の肯定割合は71.4%で市より8.0ポイント、県より10.0ポイント上回り、さらに「授業を集中して受けている。」についても市や県の肯定割合を上回ることから、授業に取り組む意欲が高いことが推察される。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定割合は40.5%で市や県をやや上回る。「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」の肯定割合が市や県を上回ることから、学び合いの授業や話し合い活動などが生徒の自信につながっていると思われる。今後もさらに言語活動の充実に向けた取り組みを継続したい。

●「学校の宿題は、自分のためになっている。」の肯定割合は82.5%で市のものから5.0ポイント、県から4.4ポイント下回っている。また、「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定割合は84.9%で、県のものとはほとんどかわらないものの、市のものより6.0ポイント下回っていることから、将来の夢や目標の実現にむけて、さらに今後の進路指導を充実させていきたい。

●「自分は勉強がよくできる方だと思う。」の肯定割合が22.2%で、市より5.1ポイント、県より4.1ポイント下回り、自信のなさが見える。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」が市や県のものを上回ったのに対し、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と考える生徒の割合が60.3%と市や県に比べやや下回る。授業の中で、自分の意見や考えをまとめ、文章にする時間を意識して持つことが大切である。

●「授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」の肯定割合が市や県のものを下回ることから、さらに授業の目標の明確化と振り返る活動の徹底を図る必要がある。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した生徒の割合は51.6%で、市と県の平均と比べて大きく下回っている。生徒が自主的に家庭学習に取り組めるようにする指導に努めていきたい。